

生活文化常任委員会行政視察概要

令和 6 年 7 月 24 日（水）

於 全 員 協 議 会 室

午前 10 時 00 分 ～ 午前 11 時 30 分

1 調査概要

「創業支援、ビジネスサポートセンターについて」

墨田区議会

墨田区では、すみだ中小企業センターの後進としてすみだビジネスサポートセンターを平成 29 年度より区役所庁舎内で運営しており、パソナグループに年額 8,000 万円で委託している。すみだビジネスサポートセンターは、ものづくりのまち墨田の経営者を支援するワンストップ窓口で、ものづくりコーディネーターとビジネス系コーディネーターが、在籍しており、3Dプリンタなどの機器も安価で貸し出している。創業から3年の生存率が約 50%と言われているが、墨田区は無謀な創業には計画の見直しや時期の再考など寄り添った支援に取り組み 88.4%という高い生存率となっている。

また、創業支援についても、企業ゼミや創業無関心者への創業機運醸成事業の実施等、金融機関や民間事業者、経営支援課とすみだビジネスサポートセンターが連携して区内の新規創業を支援している。

さらに昨年度には、会員制移設のS I Cを立ち上げ、施設の管理運営をデロイトトーマツコンサルティング合同会社に業務委託することで、スタートアップ支援の拠点として、ハードウェア系スタートアップや学生起業家を対象として伴走支援をしているということであった。



2 主な質疑応答

問 ビジネスサポートセンターのコーディネーターに税理士などはいるのか。

答 税理士などはいない。区役所の市民相談室で税理士や司法書士、行政書士への相談が設けられている。課題の整理を一緒にして、相談するようにしている。

問 ビジネスサポートセンターは、相談者に対してどこまで支援するのか。

答 相談者の目的達成までの伴走型の支援に取り組んでいる。墨田区はあまり大きくないので訪問などにも取り組んでいる。創業はゴールではなくそこからの継続が重要であり、支援に取り組む中で目標や計画の見直し等の必要性も出てくることもある。

問 創業者の先輩などの意見を聴く場はあるのか。

答 年度ごとの受講者の交流の場がある。また、区が実施するフロンティア墨田塾で、講義を受けるとともに200名程度いるOBとの交流会の開催に取り組んでいる。

問 すみサポの創設時からこれまでの課題は。

答 すみサポに来てくれる人は意欲がある人。一方で、帳簿もつけていない事業者もあり、そういった方々にどのように相談に来てもらうかが課題。

問 実際に起業する際に、初期投資のブレーキをかける必要があるが、物件探し等の支援は。

答 不動産会社や金融機関と相談してもらっている。創業支援資金の融資を受ける場合は、すみサポを経由して創業計画を作成し金融機関に申し込むようになっている。

問 起業者はよいものをつくろうとするが、なかなか広報まで気が回らない。情報発信の周知等も一緒に考えたりするのか。

答 情報発信については、地図などで検索しても出てこないという意味がない。そのため、グーグルなどの無料のサービスを使うように助言している。また無料で作成

できホームページなども紹介したり、写真の撮り方なども一緒に取り組んでいる。

問 次世代を担うものづくりの人材の育成には取り組んでいるのか。

答 2年に1回小学生向けにもものづくりフェアを開催している。産業団体ごとにメッキの加工などのブースを出展してもらっている。iU（情報経営イノベーション専門職大学）を誘致して、学生とさまざまな取り組みを実施したり、産業科のある都立橋高校と会議に出席するなど連携している。

以上